

共同利用システムとメンバーシップ 共同利用のための新たな連携

これからの学術情報システム構築検討委員会
システムモデル検討作業部会
相原雪乃（名古屋大学）



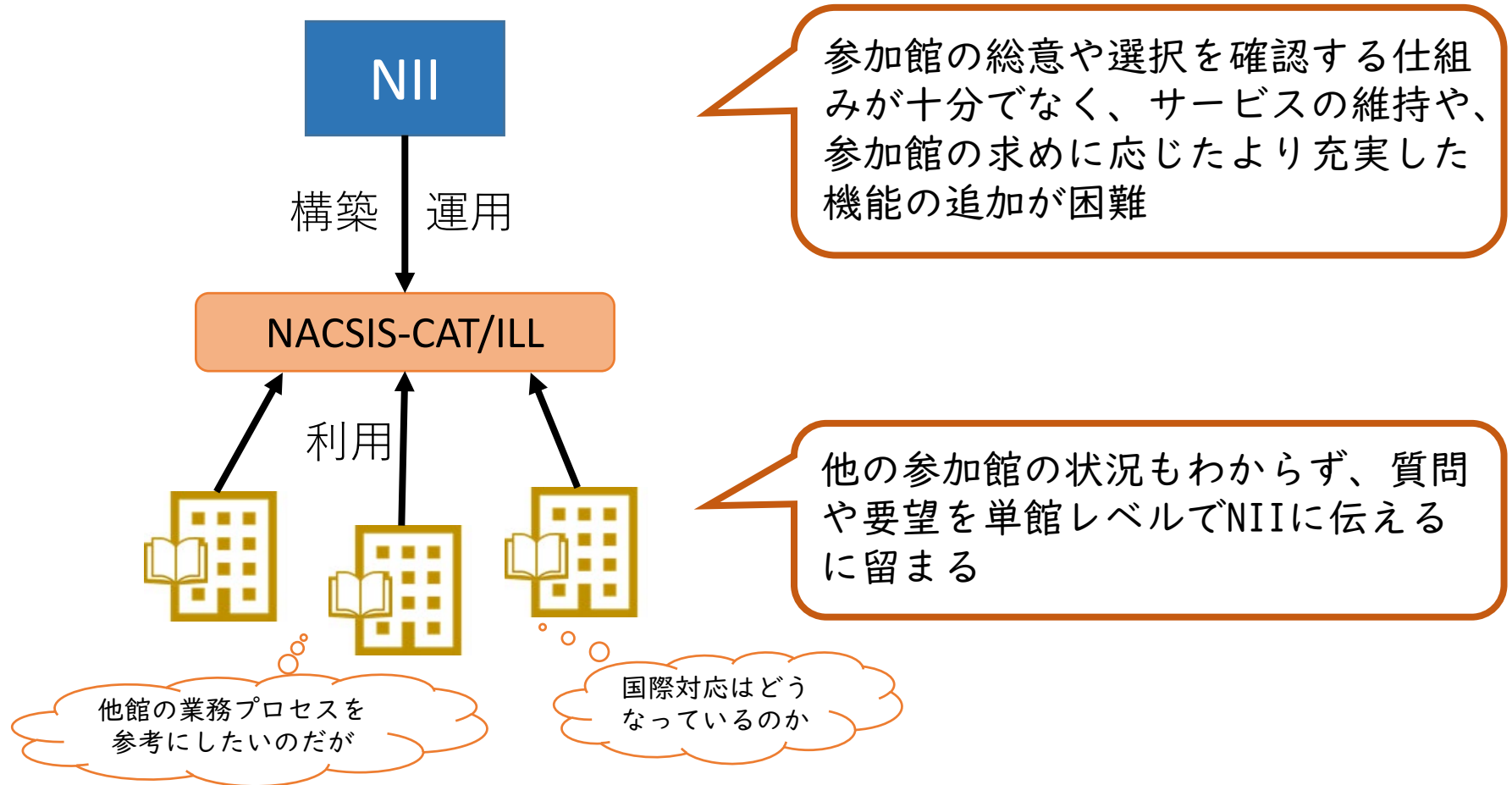
図書館システムアンケート

- 実施期間：2020年12月9日～31日
- 調査対象：2020年11月末日時点での目録所在情報サービス参加館 1,339館
- 回答数：905件
- 有効回答数：782件（58.4%）
- 『図書館システムに関するアンケート集計報告』

図書館システムアンケート

- 職員、システム担当者共ごく少数（もしくは 0）の図書館が大多数であった。
- すべての図書館業務システムが定期的に更新されるわけではない。
- 利用者の情報発見のためのツールの導入はある程度進んでいるが、電子情報を管理するシステムはほとんど整備されていない。
- 図書館システムに関しては、経費や人材の確保が課題である。
- 各機関の課題解決において共同体に期待するものは、半数を超える機関が、目録・メタデータの共有、人材育成、電子リソースの管理・提供方法の標準化を挙げた。
- 図書館システムに関して共同調達・運用についてどの点を期待するかという問いに対しては、すべての選択肢で回答数が 30%を下回ったが、共同調達・運用に期待するコメントも複数あった。

2020年現在

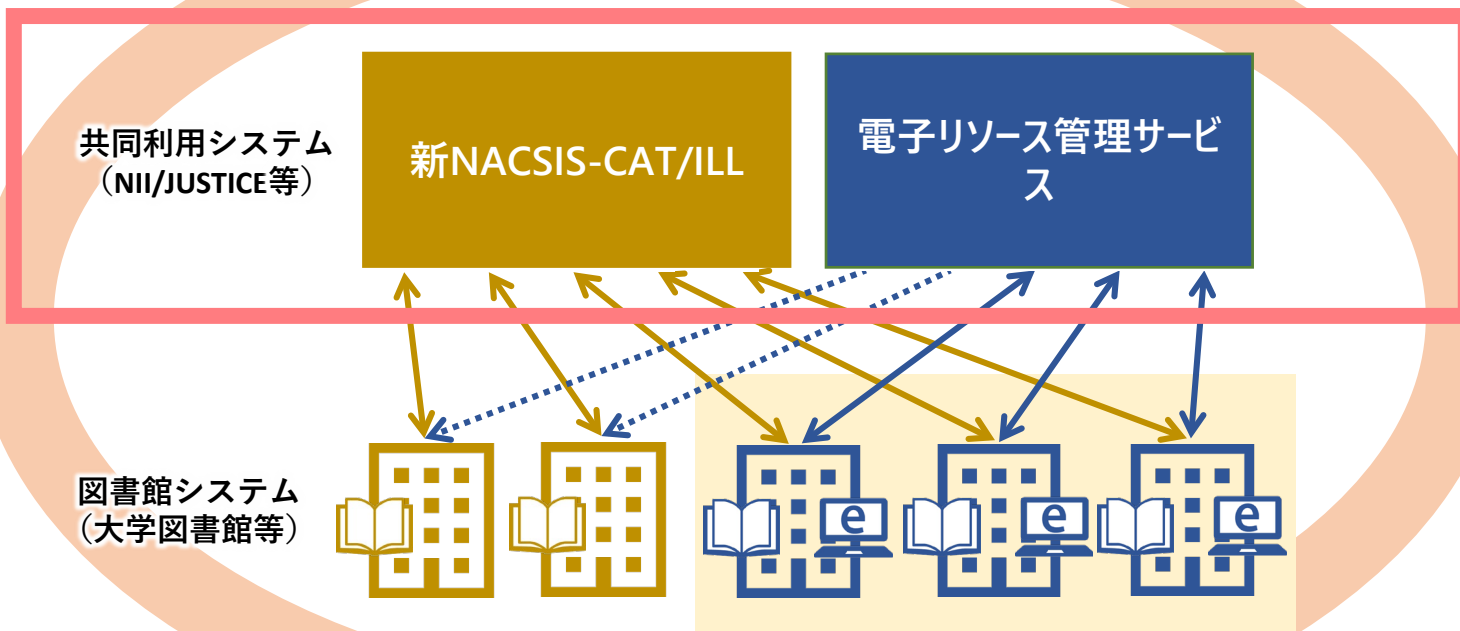


動向・背景

- 電子情報資源の普及により、学術情報の流通・管理のあり方が大きく変革
- 研究者や学生の情報利用、研究・教育のプロセスが電子的手段を前提
- 新たな役割の実現に向けた人的資源の再配置や、業務の一層の効率化

学術資料のデジタル化に対応した目録所在情報サービスを2022年から順次運用開始

図書館システム・ネットワーク（大学等）

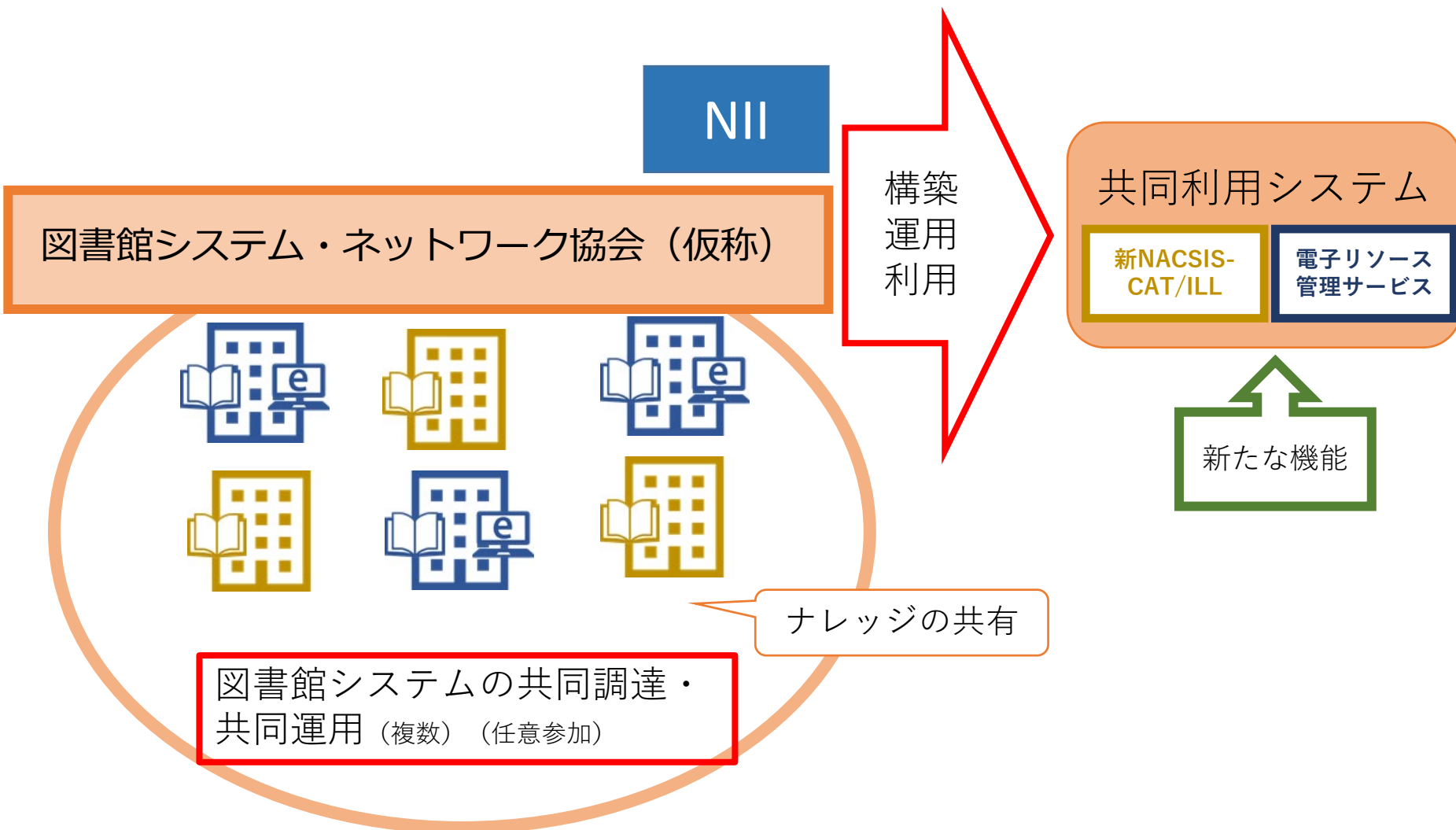


コミュニティの形成

協会の設立（提案）

- 「図書館システム・ネットワーク協会」（仮称）
- 現在の目録所在情報サービス（NACSIS-CAT/ILL）を継承した共同利用システムと各大学図書館等の図書館システムを有機的に結合させた学術情報システム基盤
- この基盤を**図書館システム・ネットワーク**と称し、これを大学図書館等と国立情報学研究所とが連携、協力して円滑に運営するための新たな組織

協会設立後の体制（提案）



協会の役割（提案）（1/2）

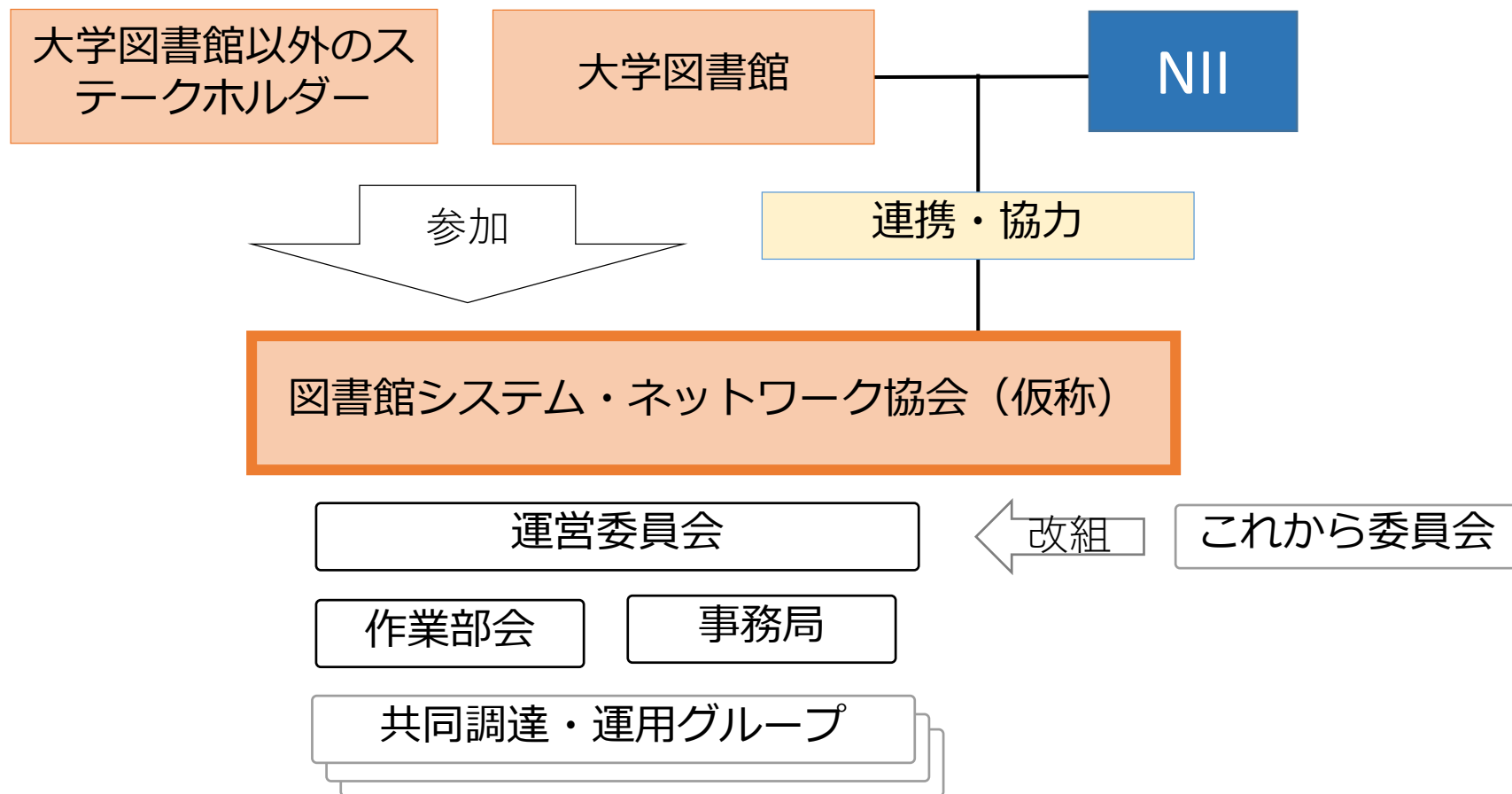
1. 図書館システム・ネットワークを社会情勢に合わせて迅速かつ機動的に運営できる組織体制をつくること
2. 図書館システム・ネットワークを共同で管理、運用することで、単館では成し得ない課題を解決すること

図書館システム・ネットワーク = 共同利用システムと各大学図書館等の図書館システムを有機的に結合した学術情報システム基盤

協会の役割（提案）（2/2）

3. 国内の学術情報システムの基盤構築および運用にあたりとともに、海外の学術情報システムとの連携の窓口となること
4. 様々な背景を持つ図書館が主体的に協会の運営に携わることで、図書館システム・ネットワークのありようを多角的に検討し、システム面でも制度面でも分野や規模を超えた図書館間の連携を推進すること
5. 機関・組織の枠を超えて人材の交流および育成を図ること

組織構成（提案）



メンバーシップ（提案）

- 協会は会員制とする。
- 共同利用システムの利用を希望する機関は、会員として協会に参加する。
- 上記により、利用機関の総意や選択を確認する仕組みとする。
- 協会の設立趣旨に賛同する機関・組織も活動に参加できるように、賛助会員を設定する。

会費の考え方（提案）

協会の発足後にNIIも含めて検討を行い、会員間の合意により、会費制度を構築する。

1. 協会の運営経費
2. 図書館システム・ネットワーク運営経費

スケジュール（案）

時期	活動内容
2021年7月5日	大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議にて、協会設立を提案
2021年7月から2022年2月頃	これから委員会で継続して検討
2021年8月～12月頃	参加機関へ設立趣旨説明＆意見交換
2022年2月頃	大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議にて審議
2022年度上半期	これから委員会を準備委員会として設立準備総会を開催、加入手続きの開始
2022年度下半期	設立、運営委員の選任、会則等の制定手続き、これから委員会を廃止

ご清聴ありがとうございました